

東ティモール民主共和国エルメラ県における 環境教育・エディブル教育の推進、ならびに その担い手としての若手リーダーの育成

活動地域  東ティモール

ひろげる助成

3年目

実践

配布した指南書の数 **72** セット

活動でファシリテートを務めた若者 **7** 人

今年度計画の達成度 **70** %

目標達成度 **65** %



「学校菜園活動は楽しい！」と生徒たち

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

学校菜園を設置した学校でも、水不足の問題や地域で放し飼いにしている動物による被害など、NGOだけでは解決できないような課題に悩まされた。

■ 工夫した点

指南書を作成する際に、東ティモールの教育事情に合わせて、文章ではなくイラストを多用し、教員にも生徒にもわかりやすく活用してもらえるものをめざした。

課題

気候変動やグローバリゼーションの影響により、持続可能ではない環境・農・食のあり方に直面している東ティモールで、子どもたちが関心・知識を得る機会が不足している。

目標

東ティモール・エルメラ県の小学校で環境教育およびエディブル教育が実践されることで、子どもたち、父母の環境・農・食に対する意識変革や具体的な行動の変化につながる。

活動内容と成果

- 昨年までの3部に加えて、レテフォホ郡でもモデルとなる学校をつくるためのワークショップを実施した。モデル校となる中央校の生徒と教員以外に、分校5校からも教員が参加し、そのエリアでの環境教育及びエディブル教育実践の普及の第一歩とすることができた
- 学校菜園導入のための指南書を作成した。県内19校に配布したほか、今後県内の別地域でも活用してもらえるように、県教育局に進呈した
- 農村部の若者7人（うち1人が女性）が、ワークショップ開催時に現地スタッフとともに技術の指導にあたることができた



若手リーダーの一人 ー自分の畑の前でー

持続可能な学校菜園



全9ページの指南書を作成して学校に配布

色々な畑の形



全助成期間の活動を振り返って

エルメラ県下4郡のモデル校の生徒への聞き取りの結果、ほぼすべての生徒が学校菜園で学ぶ前と後では農作業に対する向き合い方についての気持ちが肯定的なものに変化していた。また、学校での学びを家庭でも実践しているという具体的な行動変化が見られた生徒が約70%となったことは、地域社会への波及効果という意味でも大きな成果になったと言える。

〒169-0072
東京都新宿区大久保2-4-15-3F
電話：03-5273-8160
E-mail：info@apla.jp
HP：www.apla.jp



今後の展望

地域の若者たちがこの3年間で培った環境活動の経験やファシリテート能力をいかして活躍できる機会を創出しエンパワーしつづけられるよう、日本側ではそのための資金確保に力を入れていきたい。また、どの学校でも課題になっている野菜の種子や果物の苗を持続的に供給ができるような仕組みづくり、かつ学校や地域住民に自家採取を指導できるような取組みという次のフェーズの準備を始めたい。